樹木医補取得と現場の仕事の結びつきについて

株式会社富士グリーンテック 本店工事部／樹木医　小澤 優花

キーワード：樹木医補、履修科目、樹木医講習会、樹木医 CPD 制度

はじめに

私は秋田県立大学で樹木医補を取得し、卒業後、地元・山梨県の造園会社である（株）富士グリーンテックに入社しました。現場経験を積みながら樹木医を目指し、無事資格を取得しました。現在は主に造園工事の施工業務に携わっています。また、指定管理を行っている公園で開かれる樹木イベントの講師や樹木調査等を弊社に勤務する樹木医の方と共に行っています。

樹木医を目指した動機

私が樹木医を目指した動機は三つあります。一つ目は、樹木が好きだからです。幼少期から自然に触れることが好きで、植物、特に樹木に関心がありました。

二つ目は、樹木医の活動により1本の樹木が回復していく姿に感動したからです。私の地元には、日本三大桜の一つである山高神代桜が生育しています。幼少期から家族で花見に訪れるなど神代桜の存在は身近なものでしたが、その樹勢は著しく衰退していました。しかし、ある年から樹木医の活動によって葉の茂りが良くなり、桜が元気になっているように感じました。その際、樹木医は人の思いが詰まった木をできるだけ元気に長く生かすことができる、木と人の思いをつなぐことができる素敵な仕事なのだと感銘を受けました。

三つ目は、樹木の正しい管理方法を身に付けたいと思ったからです。わが家には上手く手入れができずに伐採した木があり、それがいつまでも心残りでした。

樹木医になり、樹木に関心がない人にも樹木を好きになってほしい、上手な管理方法を身に付けてそれを伝えられるようになりたい、そして、樹木やその木に関わる人々の思いを守れるようになりたいと思いました。

樹木医補履修科目と現場の仕事との結びつき

弊社の業務内容は、街路樹や緑地の維持管理、公園等の指定管理や森林整備、造園工事（植栽、外構、スポーツ施設等）の設計や施工です。その中で、植栽基盤調査や林内調査・伐採等も行っています。

私が在学中に学んだ樹木医補履修科目の中で直接現場の仕事に結びついていると感じる科目は、土壌学や森林生態学関係や植物病理・害虫・農薬学、実験、樹木医学実習・インターンシップ等です。

土壌学関係の知識は土の性質を把握するために役立ちます。現場の植栽工事では、木をその場に根付かせることが重要です。そのため、樹木医として現地の土について植栽基盤調査を行います。この調査では、土壌硬度や透水性、構成要素や pH 等の調査を行い、指定された木を植えるのに適しているのか、適していない場合はどのような処置を施すのかを検討します。

樹木や生態学の基礎的な知識は工事の設計や施工を行う際に活かされます。どうすれば木に優しくあれるのか、木の生育を促すことができるのか等を踏まえて工法やデザイン等を検討します。

病害虫や農薬の知識は緑地の維持管理を行う際に必要となります。これらの科目を基礎知識として身に付けていると、実際の現場で薬剤等を用いる際に作業を安全に行いやすくなります。また、仕事において病害虫や農薬等に関する知識や理解を深めやすいと思います。

木を扱う中で、「この木の名前は何か」という質問を多く受けます。そのような問いかけに答える際、環境科学実験等で樹木に触れ、樹木の識別について学んだことが役立っていると感じます。

樹木医補履修科目の中には、樹木医実習や樹木関係

の会社へのインターンシップがあります。私はこの科目の中でさまざまな人の意見や考え方に触れ、樹木医には一つのことにとらわれず視野を広く持ち、多面的な角度で観察・分析して、複合的に判断する力が必要であると感じました。樹木医として活動していると、「この木はなぜ弱っているのか」「どのように管理していけばいいのか」といった質問を受けます。生育状況はどうか、どのような経緯で今の状態になったのか、今後どうしていきたいか等、気に掛けることはたくさんあります。大事なことは、樹木の管理者や関わりのある人たちの話をよく聞き、対象の樹木や周辺環境をよく観察し、それらを踏まえて処置方法をよく思案することだと私は思います。そのような考えを持つきっかけとなった樹木医実習やインターンシップはとても良い経験だったと思います。

樹木医の能力向上を図る機会

私は現在、日本樹木医会山梨県支部に所属しています。山梨県支部では、年に数回、樹木医の能力向上等を目的として講習会が開催されています。この講習会では座学だけではなく、実際に題材となる樹木の生育場所を訪れて樹木診断・意見交換を行ったり、山梨県内の天然記念物等について各担当に分かれて樹木調査を行ったりしています（**写真**）。樹木医同士が集まって仕事をすることはあまりないので、こういった機会があることは恵まれており、樹木医としての能力向上に大変役立つと思います。

写真　調査対象樹木の診断状況

また、令和元年度から樹木医CPD制度の運用が開始されました。これにより、以前にも増して講習に参加する人が増えたのではないかと思います。昨今はコロナウイルスの影響もあり、Webセミナーが多く開催されています。実際に現地に赴かなくとも遠方の講習会を受講することができるため、さまざまな講習会に参加しやすいのではないかと思います。私もいくつかWeb講習会を受講しましたが、大変勉強になりました。

日本緑化センターからも講習会や学会等の情報がメールで送付されます。このような機会を利用することで、樹木医としての能力向上を図ることができます。

樹木医補を目指す方々に向けて

樹木医補を取得すると、樹木医試験を受ける際に必要となる実務経験年数が7年から1年に短縮されます。したがって、実務経験が比較的少ない状態でも樹木医になることが可能です。

よく言われることですが、樹木医になることがゴールではないと、私も樹木医になってから感じます。これは資格を取得したからといって、急に樹木に関するどんな問題でも解決できるようになるわけではないからです。しかし、樹木医になることで樹木に関するさまざまな相談や事例に触れる機会は増えます。経験の浅い私には毎日が勉強です。樹木医補取得のために学んだ科学的知識や問題の捉え方、考え方等は、この足りない経験を補うために非常に重要であると感じます。

資格取得後に実際に相談を受け、その対処法を提案することには樹木医としての責任が生じますが、多くの事例に触れることで学ぶこともたくさんあります。より短い期間で樹木医としてのスタートラインに立てることをはじめとして、科学的知識やそれに基づく多角的・複合的な見方を身につける機会を得られることが、樹木医補取得の利点ではないかと私は思います。。

小澤 優花（おざわ ゆうか）
2018年秋田県立大学 生物資源科学部卒業。同年、（株）富士グリーンテック入社。樹木医。山梨県出身。